

Yusuhara a Home from Home (第1部)

不安が喜びに変わる時 (Uncertainty to Delight)

今年の3月半ば。僕の人生が大きく変わる知らせを受け取りました。この知らせを受け取るために、それまで1年以上かけて、準備してきたのです。そうです。僕は、日本に行くことになりました。故郷のイギリスから、これ以上は離れようがないくらい遠い国へ。そして今まで名前を聞いたこともなかった町、梶原へ。

受け取ったALTの採用通知に書かれていた文字(コーチケン、ユスハラチョウ)を読んだとき、最初の興奮は好奇心へと変わっていきました。この町ってどこにあるんだろう?僕が知っとかなきゃいけないことって、どんなことだろう?頑張ってはみました。でもグーグル検索で見つけることができたのは、大半は新しいものでも5年以上は前のことで、大した情報はほとんど得られませんでした。この時点で僕は、ちょっとした葛藤を抱えていました。この町、最初に希望を出していた赴任地とはまるで違うじゃないか……。気候や気温も、僕の故郷とはかけ離れているし、他の町や場所へと出かけるにしても、公共交通機関はあってないようなものです。……僕は自分の決断に、だんだんと自信が持てなくなってきました。

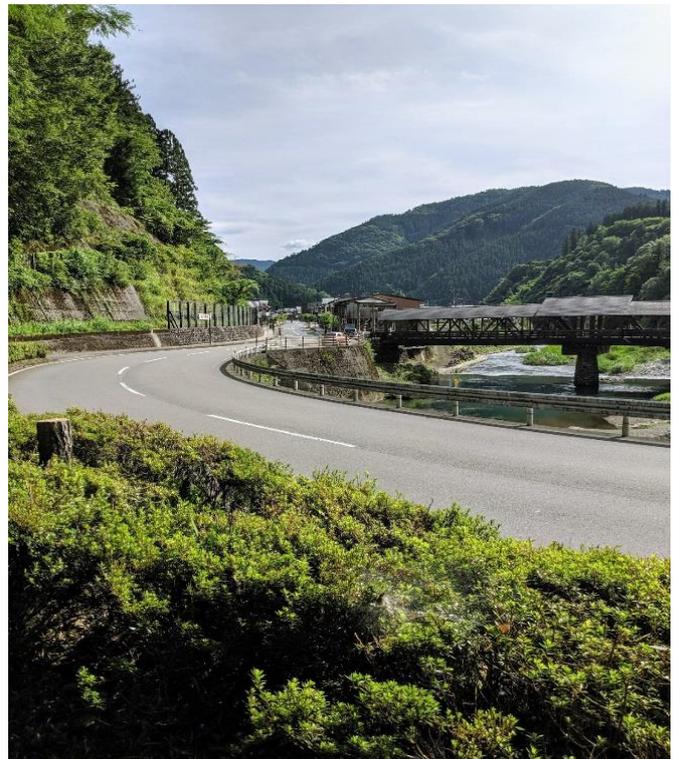
一番いいのは、町をじかに見てみて、そして自分なりの考えを持つことだ、という気持ちに、最終的にはなっていました。……高知空港を後にして、町へと案内される道中、いつ途切れるのかわからないくらい山々を見ました。えっと、僕が住むことになる山って、どのあたり?この時の気持ちをどう表現すればいいのか、自分でもわかりません。そして数時間経って、ようやくこの町に到着したのです。

そうです。僕は、間違っていました。

心配しすぎだったこと。そして、最悪の状況を考えてのも取り越し苦労だったこと。町の様子に目を向けた瞬間から、それまでの不安は吹き飛んでしまいました。眺めも、風景も、本当にきれいで、純粋な喜びと心が躍る気持ちの他に、何も感じることはできませんでした。街並み。建物のたたずまい。樹木の緑。川の流れ。もう、何もかもが完璧でした。現代的な美しさと、伝統的な美しさが無理なく調和していて、僕が思い描いていた「日本の理想的な姿」が、そのまま目の前に広がっていたのです。

そして今、梶原で生活を始めてようやく数週間というところです。この町に赴任できたことは喜びでした。それは、ここで出会った方々……僕をしっかり受け入れようと、求められている以上の手助けをしてくださった、全てのみなさんのおかげによるものです。僕はそのお心遣いに感謝します。それがあつたからこそ、この地でもっと頑張らなければ、できる限りの恩返しをしなければ、という気になれました。この地にいること、それ自体で、僕はもう、これまでより成長した自分になれているのです。

……こんにちは、梶原。故郷から遠く離れた、もうひとつの故郷。



毎朝、この絶景を眺めることができるのはラッキーです!